

井上 忠典 (いのうえ ただのり：応用心理学部 臨床心理学科)

主な担当授業：心理療法概論、青年心理学、臨床心理学演習

専門：リラクゼーション法（催眠、自律訓練法）、青年期の心理的適応

反抗期はいらない!?

●反抗期って何？

みなさんには、「反抗期」がありますか、もしくはありましたか？子どもの発達の特徴として、小学生までは親に依存的ですが、中学生になると急に反抗的になります。学校や友だちについて話さなくなり、親が尋ねても「べつにー」と答え、自分の部屋に入ったまま出てこないといったこともみられます。時には、大声を上げたり、ものに当たり散らしたり。ひと昔前まで、子どもには反抗期があると考えられていました。

●反抗期はなくなった!?

最近の子どもたちは、親に反抗しなくなった、と言われてます。俗にいう「友だち親子」が増えてきているようです。ある調査では、約半数の中学生たちが父親・母親と「とても・かなりうまくいっている」と回答しています。20～30年前は「思春期危機」という心理的に不安定な時期があると考えられていましたが、今では「青年期平穏説」という主張の方が強くなっています。

●反抗期はいらないのか？

反抗期がなくなってきた理由として、「親がものわかりが良くなった」「親子間での価値観の違いが小さくなった」などがあります。子どもとしては、居心地のいい家庭環境が用意され、反抗の必要がなくなったのでしょう。けれど、デメリットはないのでしょうか？問題のひとつは、親からの自立の欲求が薄れることです。親元を離れたとは思わず、いつまでも子どものままでいるために、ニートやフリーターを続けたら、結婚をしない若者が増えるという心配があります。

●「青年よ、荒野をめざせ!」

昔、「青年は荒野をめざす」(春秋文庫)という五木寛之の小説がありました。自由と夢を求めて、自分の道を切り開いていく青年像を描いた作品です。自分が何をやりたいのか、探し求めていくためには、親の庇護の元から抜け出して、自分一人で生きていく覚悟が必要なのかもしれません。

